

▼九州

30年続くゴルフ会

プレーできる身体に感謝

飯田 舜一郎(OBS)

第1回の「大分みんくゴルフ同好会」は30年前の平成6年12月1日に「大分竹中カントリークラブ」で開催しました。優勝者は内田文夫さん(OBS・当時60歳)グロス81、ハンディ9・6、ネット71・4でした。

30年後の令和6年11月5日には第113回を数えました。この時は第1回と同じ「大分竹中カントリークラブ」で開催し、森一則さん(OBS・82歳)が、グロス90、ハンディ21、ネット69で6度目の優勝を飾られました。



第113回みんく大分ゴルフ会より
優勝した森さんは前列右端

かつては30人近い会員で盛大に行われましたが、現在は12人で、3組は組めないこともありま

す。これまで大分県内17のゴルフ場(クローズしたゴルフ場あり)を巡りましたが、最近では年齢を重ねた方が多く(平均年齢79・2歳)、遠距離のゴルフ場は避けるようにしています。これからもゴルフができる身体に感謝し、年間4回のプレーを楽しんでいきたいと思っています。

初めての朗読交流会

林 欣子(TNC)

九州民放クラブ福岡の社会貢献活動「朗読奉仕グループ」では、毎年12月第3週、最後の勉強会「お楽しみ会」として、紙芝居やコーラス、オカリナ演奏の鑑賞等そして美味しいお菓子とおしゃべりの一時ですが、昨年12月8日は、視覚障がいの方々の依頼で、初めて「朗読交流会」を開催しました。

当日は、リスナー15名とそれぞれに付き添うガイドヘルパー15名、朗読奉仕グループの民放OG会員2名と協力会員20名の総勢

52名で、福岡市中央区のふくくプラザの研修室が一杯の盛況でした。

司会は、グループで貴重な男性4人のうちの1人、13年のキャリアの協力会員、塚本光男さん(障がい者相談専門員)がスムーズに進行。



司会で活躍の塚本光男さん

演目は『野球しようぜ! 大谷翔平ものがたり』、黒柳徹子の『窓際のトットちゃん』、森鷗外の『高瀬舟』、谷川俊太郎、金子みすゞ等の詩の朗読に、落語2席など盛り沢山。途中、オカリナ生演奏をバックにおやつ、栗饅頭などを食べながらおしゃべりも和やかに弾んで、予定の2時間はアツと言う間。朗読指導の木邑恭子、

大藪章子(ともに元TNCアナ)会員の挨拶もユニークで好評でした。平成2年に発足して、初めての朗読交流会、今後も、年に数回開催しようとの機運が高まっています。

朗読技術が全員グリーンと伸びた事と、グループの結束が更に強まった事が何よりの大きな収穫でした。35歳の朗読奉仕グループ。九州・沖縄各県立盲学校、点字図書館等15カ所にデジタルCDや音楽用CD等、録音図書を贈呈しています。福岡市の音訳ボランティア養成講座の講師を担当した縁で加入して貰った修了生は、協力会員として今や主力メンバーで大活躍中です。



交流会開始前の緊張したひと時